



北九州 歴史と夢は 港から



北九州港の将来ビジョン



- PORT OF KITAKYUSHU -

北九州市港湾空港局長
中崎 剛

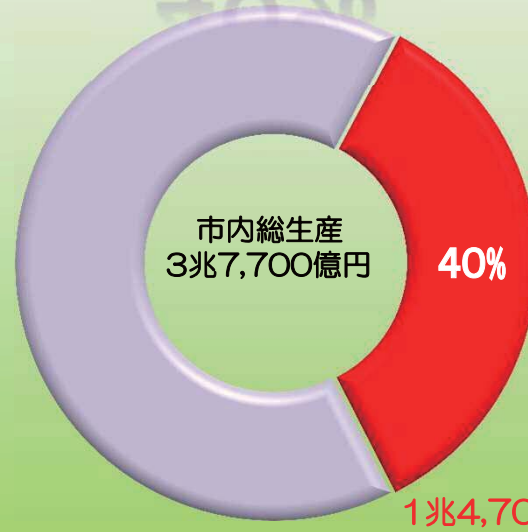
北九州市経済に占めるウエイト

- 物流関連産業と港湾利用製造業を合わせた生産額（粗付加価値額）は、市内総生産の約40%に達する。
- 雇用者所得は、市内雇用者報酬の約35%を占める。



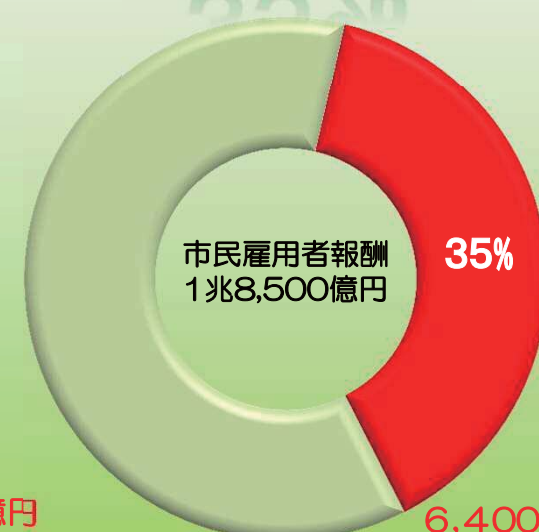
市内総生産の

40%



市民雇用者報酬の

35%

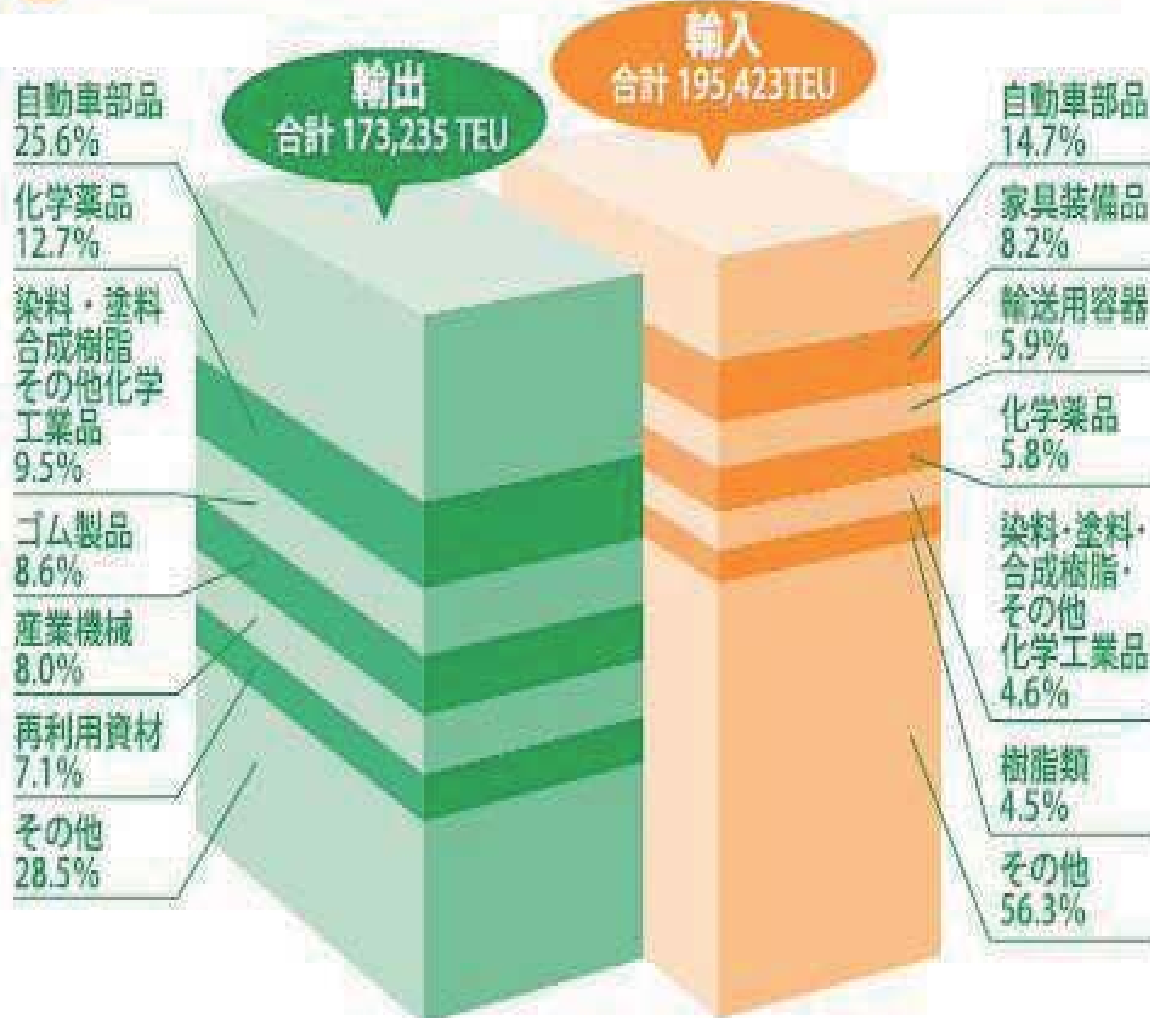


港湾利用製造業: 原材料調達や製品出荷などにおいて港湾利用度の高い製造業
市内総生産: 財・サービスの生産にあたって投入された原材料及び粗付加価値の合計 (=生産された財・サービスの販売額の合計)
粗付加価値額: 各産業部門の生産活動によって新たに付加された価値で、家計外消費支出、雇用者所得、営業余剰、資本減耗引当、間接税及び補助金から構成される
雇用者所得: 生産活動から発生した付加価値のうち労働を提供した雇用者への分配額

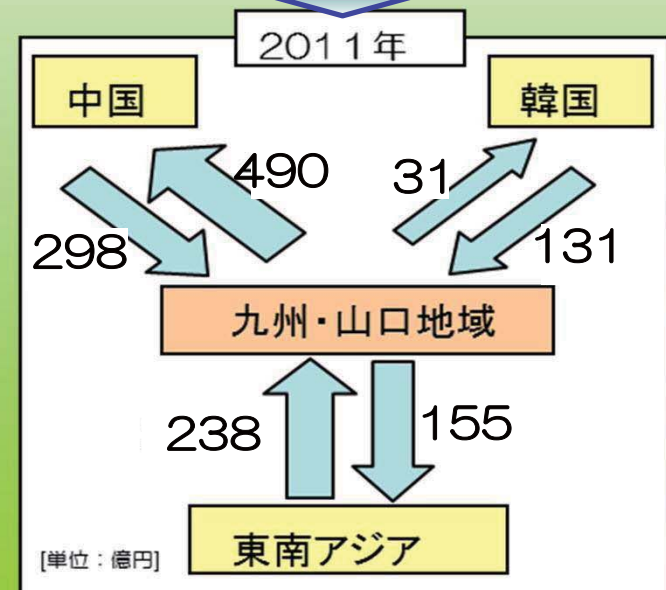
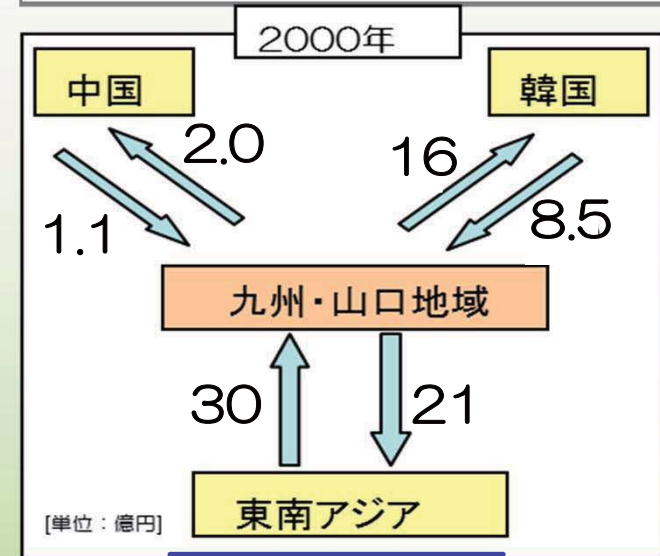
■ 関門港コンテナ貨物の特徴

品種別国際コンテナ貨物(実入りのみ)

輸出入のバランス(輸出47%、輸入53%)が良く、効率的なコンテナ運用が行われている。



■ 自動車部品のやり取りの活発化

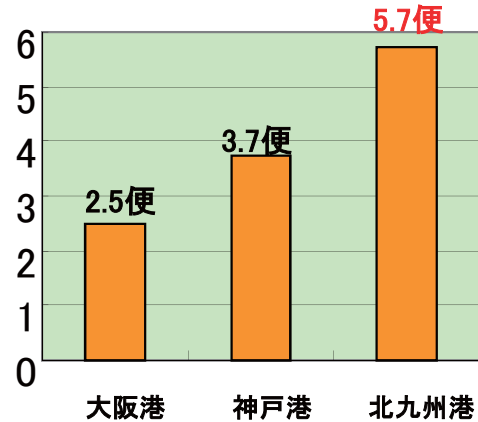


出典：門司税関資料

■豊富な定期コンテナ航路網

月間39航路197便の豊富な外航定期航路が就航
(2012年7月1日現在)

○取扱貨物量(千TEU)あたりの
外航コンテナ便数(対中国、韓国の輸出入)



ロシア航路
1航路1便

韓国航路
14航路96便

中国航路
10航路44便

北九州港

台湾航路
2航路8便

香港航路
1航路4便

東南アジア航路
11航路44便

主なコンテナ定期航路 <港別>

- 釜山：月間 24航路136便
- 香港：月間 9航路 36便
- 上海：月間 9航路 40便

国の動き

平成23年11月：「**日本海側拠点港**」に選定

北九州港は、下関港と連名で関門港として選定されるとともに、「総合的拠点港」にも選定される。

平成23年12月：「**環境未来都市**」に選定

「北九州市環境未来都市」が選定される。

「**国際戦略総合特区**」に選定

福岡県、北九州市、福岡市が三者共同で申請していた「グリーンアジア国際戦略総合特区」が指定される。

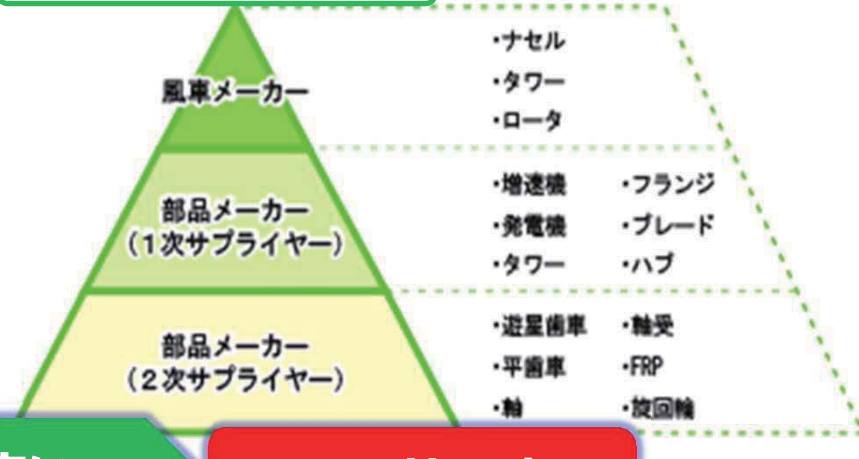


これらの制度を、港湾利用促進施策にいかに活用していくか。

■風力発電産業の魅力

部品数1~2万点

従事者約50万人

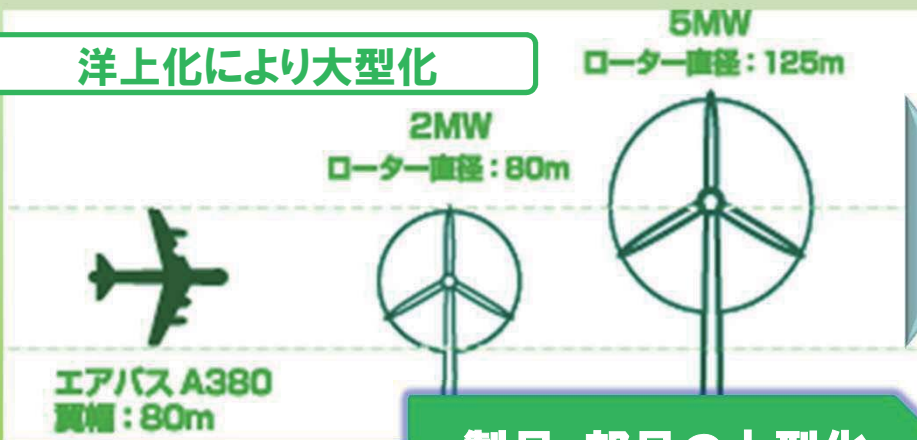


部品点数が多い

裾野が広い

雇用効果大

洋上化により大型化



製品・部品の大型化



海上輸送

雇用・港を支える産業として魅力的

■「グリーンエネルギーポートひびき」構想

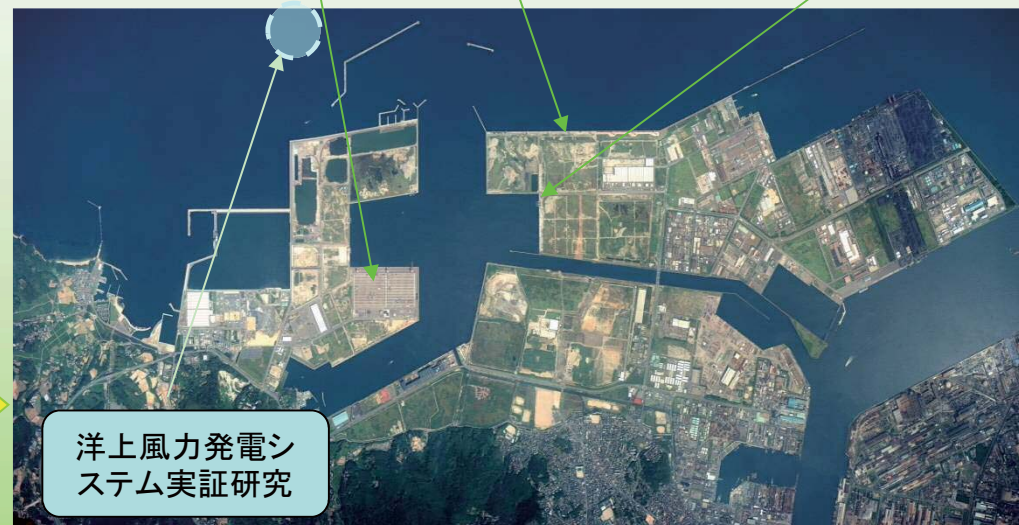
グリーンエネルギーポートひびき構想

響灘地区の立地優位性

- ◆アジアに近接するロケーション
- ◆充実した港湾施設
- ◆港湾施設に隣接した産業団地
- ◆実証実験に適した環境

+

国際戦略総合特区



響灘地区に風力発電産業に必要なものをワンパッケージ

実証研究施設

+

製造・物流
拠点

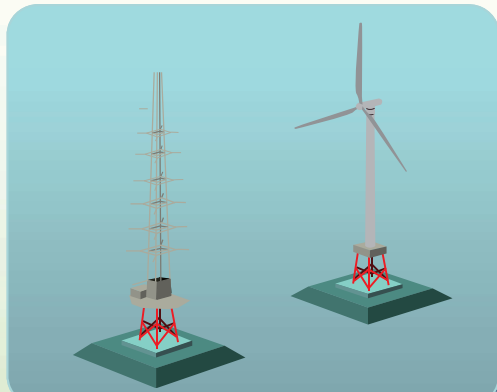
+

メンテナンス

=

風力発電産業
アジア総合拠点

■響灘地区での風力発電設備導入状況及び計画



NEDO/JPOWER実証研究事業
風況観測鉄塔/2MW×1機 (H25.6稼動予定)



エヌエスウインドパワーひびき
響灘風力発電所
1.5MW×10機



ジェイパワーひびき
風力発電所
2.7MW×1機 (H25.5末稼動予定)



テトラエナジーひびき
風力発電所
2MW×1機



北九州 歴史と夢は 港から

ご静聴有難うございました。